

# 中部地域の普及活動（普及活動月報）

令和8年2月 中部農林振興局

（中部農業改良普及センター）

## 目次

- I 管内農業・農村の出来事や新たな動き (P2)
  - 1 宮崎市SAP会議佐土原支部が農福連携セミナーに登壇
  - 2 2月期子牛せり市が開催
  - 3 宮崎中央家畜市場子牛品評会が開催
  - 4 令和7年度中部地区茶業協議会 全体研修会・表彰式
  - 5 宮崎市佐土原ナス研究会による佐土原ナスの種とりを実施
  
- II 主な普及指導活動等の取組み
  - 1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動 (P3~4)
    - 1 青年等就農計画の作成支援
    - 2 綾オーガニックスクール企画運営委員会定例会の開催
    - 3 承継マッチング試行の支援
    - 4 大規模経営体育成に向けた協議
    - 5 みやざきデジタル施設園芸産地構築事業（Dプロ）生産者研修会が開催
    - 6 ベビーハンズほ場で干ばつ、凍害対策のための散水器具を設置
    - 7 中古未利用の散水器具のマッチングに向けた地区との打ち合わせを実施
    - 8 散水器具活用に係る研修会を実施
    - 9 小松・跡江地区の基盤整備事業に係る営農協議が開催
    - 10 NAMAHAAGEダリア交流会が開催
  
  - 2 プロジェクト（総合、専門）以外の普及活動(一般活動) (P5~6)
    - 1 JAみやざき高岡支店青年部農業経営研修会が開催
    - 2 令和7年度中部地区畑作営農改善推進協議会委員会、企画班会を開催
    - 3 大玉・ミニトマト品種比較調査を実施
    - 4 JAみやざき宮崎中央地区本部トマト担当者会を開催
    - 5 JAみやざき宮崎中央地区本部夏秋ピーマン担当者会を開催
    - 6 水稲育苗講習会の開催
    - 7 ソフトバンク春季キャンプでみやざき地頭鶏PRイベントを開催
    - 8 JA宮崎中央地区本部 田野支店胡瓜部会病虫害防除講習会が開催
    - 9 宮崎支店ピーマン部会青年部現地検討会

# I 管内農業・農村の出来事や新たな動き

## 1 宮崎市SAP会議佐土原支部が農福連携セミナーに登壇

17日、農福連携セミナーがJA・AZMホールで開催され、SAP会員2名が講師として登壇しました。

みやざき中央支援学校との連携についての発表に加え、パネルディスカッションでのやりとりを通じて農福連携の今後の展開について議論が深まりました。

今後もSAP会員は、SAP活動の一環として支援学校との連携を継続して行っていく予定です。



【農福連携セミナー】

## 2 2月期子牛せり市が開催

9日と10日の2日間、宮崎中央家畜市場で開催され、合計540頭（雌：276頭、去勢：264頭）の出場がありました。

せり前講習会では、JA畜産部長から概況等の説明、続いて普及センターから「冬に増える、尿石症」と題して講習を行いました。合わせて、韓国における口蹄疫の発生と、各農家での農場防疫の強化を啓発しました。

子牛平均価格（税込）は、雌774千円（前回比49千円高）、去勢874千円（前回比52千円高）、総平均823千円（前回比47千円高）という結果になりました。



【研修会に参加する生産者】

## 3 宮崎中央家畜市場子牛品評会が開催

13日、JAみやざき宮崎中央地区本部と綾町地区本部との合同開催による3月期子牛せり市に向けた2月期子牛品評会が家畜市場で開催されました。

審査の結果、宮崎支店の外山重信氏の「ももさくら」号（桃白鵬産子）が優等1席を受賞しました。審査委員長の講評では「発育良好、体積に優れて体幅、深さ、長さがあり、体の均称が美点」として評価されました。



【優等1席「ももさくら」号】

## 4 令和7年度中部地区茶業協議会 全体研修会・表彰式

25日、宮崎市のエアラインホテルで開催されました。

当日は各組織の総会と合同で行われた研修会には多数の参加があり、茶業支場の黒岩技師による「秋整枝、秋冬番茶の摘採に向けて」と題した講習では、茶園管理の改善につながる知見を共有され、有意義な研修となりました。

続いて表彰式では、茶園品評会など各種受賞者の功績が称えられました。その後、会長から参加者へ向けて、「これからも良質な茶生産を目指し、適切な管理を継続して行きましょう。」との呼びかけが行われました。

今後も引き続き、良質茶の生産に向けて関係機関とともに支援してまいります。



【研修会の様子】

## 5 宮崎市佐土原ナス研究会による佐土原ナスの種とりを実施

3日、宮崎市において、生産者9名、関係機関7名が参加し、佐土原ナスの種とりが行われました。毎年、この時期に開催されており、次作に向けた大切な作業です。

作業が始まると、参加者全員が作業に集中し、一粒一粒丁寧に種をとり出す作業に黙々と取り組んでいました。

次作に向けて、引き続き関係機関と連携し同研究会を支援していきます。

## II 主な普及指導活動等の取組み

### 1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動

#### 【総1・中部地域の農業を未来へつなぐ農業者の確保育成】

##### 1 青年等就農計画の作成支援

2月は1名の就農相談、4名の就農計画作成支援を実施しました。それぞれ就農予定者との相談をとおして、中長期的な視点で計画を考えるように促しました。

##### 2 綾オーガニックスクール企画運営委員会定例会の開催

18日、綾オーガニックスクールの運営主体である（合）アヤオーガニックワークスの事務所において、企画運営委員会定例会が開催され、関係者5名が出席しました。定例会では、農業実習や座学の進捗状況の確認、3月に行われる卒業式や国庫事業を活用した施設整備等について協議が行われました。

普及センターでは、町役場とともにスクール卒業生等の就農計画作成支援を継続して行っており、今後も関係機関と連携して、支援していきます。

##### 3 承継マッチング試行の支援

承継マッチング試行の一環として、今年度、大学生向けの農業体験ワークショップを営農振興協議会果樹部会と連携して開催することとしています。

17日から完熟きんかん（受入農家2名）において収穫体験ワークショップが開始され、受入状況の確認を行いました。大学生により、事前に説明があったとおりに果実を傷つけないよう丁寧に作業が行われ、収穫の喜びを感じているようでした。

ワークショップは3月20日頃まで行われる予定となっており、今後も関係機関や農家と連携し、支援を続けていきます。

#### 【総2・集落モデル育成による持続可能な水田営農の展開】

##### 4 大規模経営体育成に向けた協議

12日、地域水田の受け皿となる経営体の育成強化・規模拡大の支援に向けて関係機関との意見交換を行いました。

協議では、県が構想する大規模経営体の育成に向けて、管内の耕作面積別での農家の経営実態、米価格高騰に伴う動向の変化、園芸との複合経営での制限や労働力不足、JAの集荷の目標等といった現状と課題を共有しました。

今後、今回の協議内容を目標に盛り込んでいながら、大規模経営体への支援について関係機関とともに取り組んでまいります。

#### 【総3・施設園芸版スマート農業による高収益園芸産地の育成】

##### 5 みやざきデジタル施設園芸産地構築事業（Dプロ）生産者研修会が開催

2～10日にかけて、宮崎市や国富町において6回、生産者計37名、関係機関計17名が参加し、みやざきデジタル施設園芸産地構築事業（Dプロ）生産者研修会を開催しました。Dプロ参加生産者及び令和8年度参加予定者に対してDプロアプリの使い方を講習し、追加してほしい機能等の聞き取りを実施しました。より使い勝手の良いアプリとするべく、積極的な意見が多く出されました。

## 【総4・マーケットインに基づく新たな土地利用型営農の展開】

### 6 ベビーハンズほ場で干ばつ、凍害対策のための散水器具を設置

13日、国富町のほ場に散水チューブを設置しました。生産者からは「1月からずっと雨が降っていなかったため、水があるのはありがたい」といった意見が出されました。

今後は、同ほ場で、萌芽確認後に小面積で散水氷結法の効果を確認する予定です。



【設置した散水チューブ】

### 7 中古未利用の散水器具のマッチングに向けた地区との打ち合わせを実施

普及センターでは、使用頻度の少ない散水器具を別の生産者に貸し出すといったマッチング体制づくりに取り組んでおります。

7日、宮崎市田野町で土地改良区の役員と貸出単価や貸出に係る手続きの協議を行い、素案を作成しました。

今後は、これらの条件を散水器具が使いたい生産者に説明し、利用者を募ります。

### 8 散水器具活用に係る研修会を実施

18日、普及センターで散水器具活用に係る研修会を開催し、生産者6名、関係機関13名の出席がありました。研修会では、植物生理学から考える水の必要性や、散水器具の使い方、各品目ごとの散水のタイミング等を説明した後に、駐車場で散水器具の実演を行いました。

今後も新しく散水器具を使いたい生産者に対して、情報提供を行っていきます。



【レインガンの実演】

### 9 小松・跡江地区の基盤整備事業に係る営農協議が開催

17日、跡江公民館で開催され、生産者10名、関係機関10名の出席がありました。協議では、基盤整備後の営農に向けた水田裏作の作付品目について検討しました。小松・跡江地区での試験栽培（たかな・水田ゴボウ）により栽培イメージが浸透しつつあることから、令和8年度も水田ゴボウの試験栽培を継続する方針が示されました。

今後も実証ほの支援を継続し、収益性の高い水田農業の実現を支援していきます。

## 【専6・生産技術向上による花き産地の維持】

### 10 NAMAHAJEダリア交流会が開催

19日、宮崎市において、生産者10名、育種家1名、関係機関11名が参加し、秋田県と宮崎県でリレー出荷をしているNAMAHAJEダリアの検討会が開催されました。

中部管内の生産者ほ場で今作から栽培している新品種のNAMAHAJEダリア14期生を中心にNAMAHAJEシリーズの生育状況を確認しました。

その後、室内検討では、各県におけるNAMAHAJEダリア14期生の特性について検討しました。普及センターからは現地ほ場での特性調査結果を報告しました。生産者や関係機関間で意見が交わされ、有意義な会となりました。



【現地検討会】

## 2 プロジェクト（総合、専門）以外の普及活動（一般活動）

### 1 JAみやざき高岡支店青年部農業経営研修会が開催

24日、JAみやざき高岡支店にて開催され、青年部9名が参加しました。普及センター職員がライフプランを作成する目的や農業経営への活用方法等についての講義を行い、その後、作成実習を行いました。実際にライフプランを作成することで、今後の家計や農業経営に必要な費用を視覚的に把握することができました。今後の農業経営への活用が期待されます。

### 2 令和7年度中部地区畑作営農改善推進協議会委員会、企画班会を開催

26日、普及センターで当協議会委員会・企画班会を開催し、令和7年度活動実績、令和8年度活動計画のほか、渇水対策や節水に係る協議を行いました。また、規約の改訂があり、市町村の農業土木部局が企画班会に参画することとなりました。今後も関係機関と連携を図り、畑作営農の推進を進めていきます。



【中畑協委員会、企画班会】

### 3 大玉・ミニトマト品種比較調査を実施

12日、宮崎市で、JAと共に調査を行いました。調査品種については、ミニトマトでは「No. 839、サマー千果、小鈴クイーン、みわた、23C-351」、大玉品種では、「SC8-178、麗妃」となっており、全品種の草丈や果房段数等の調査を行いました。全体的に草丈が大きく伸び、茎径は太くなる傾向が見られました。今後も引き続き調査をしながら、品種特性を判断していきます。

### 4 JAみやざき宮崎中央地区本部トマト担当者会を開催

12日、JA南宮崎営農センターにおいてトマト担当者会を開催しました。担当者会では、トマトの生育状況や来作の育苗に係る防除体系、新たな苗生産体制を検討をしました。また、普及センターからは、大玉・ミニトマトの品種比較調査の結果を報告しました。大玉品種のSC8-178は、対照区の麗妃と比べ、草丈・茎径に差は見られないが、果房段数が少なく、果房間長が長い傾向にあるとの意見が出されていました。今後も引き続き品種調査等を行いながら、地域にあった品種を選定していきます。

## 5 JAみやざき宮崎中央地区本部夏秋ピーマン担当者会を開催

27日、JA生目営農センターにおいて開催されました。令和8年度に予定している高温対策（外気導入）の実証試験や、天敵導入に向けた防除暦の作成などについて、検討を行いました。また、普及センターより、先行して外気導入の実証を行った西諸県地区の事例について情報共有をしました。

今後も、引き続き先進地視察や実証試験を行い、近年の気象変動に対応可能な栽培体系の確立に向けた支援に取り組んでいきます。

## 6 水稻育苗講習会の開催

3日、JA宮崎支店で、うまい米づくり研究部会員の20人を対象に、育苗講習会を開催しました。講習会では少雨に伴う育苗日数の長期化に備えた健苗づくりのポイントなどを説明し、部会員からは消毒薬剤の特徴などの質問が出されました。

5日、JAファームにて、同職員約15名を対象に講習会を開催し、今後は現地巡回などを行い健苗育成に向けた支援を行います。

## 7 ソフトバンク春季キャンプでみやざき地頭鶏PRイベントを開催

7日、生目の杜運動公園で、中部地域みやざき地頭鶏協議会によるクイズ大会及びふるまいを実施しました。クイズ大会には栗原会長とともにみやざき犬（かあくん）が参加し、会場でのイベントを盛り上げました。

また、生産者がその場で焼き上げたみやざき地頭鶏の炭火焼きを約650名に振る舞い、一時は長蛇の列ができるほど大盛況となり、「みやざき地頭鶏」を盛大にPRすることができました。



【炭火焼きのふるまい】

## 8 JA宮崎中央地区本部 田野支店胡瓜部会病虫害防除講習会が開催

12日、JAみやざき田野支店において開催され、部会生産者や指導員JA約40名が参加しました。

始めに部長から、作の後半に向けて皆でしっかりと勉強しよい成果を残そうとの力強い挨拶があった後、普及センターから記録的な少雨を踏まえたかん水管理の考え方について説明を行いました。

その後の講習では、総合農業試験場の黒木副場長から、春先の気象条件に合わせた病虫害対策や、植物生理を踏まえたかん水や施肥の考え方について説明がありました。講習後はさまざまな質問が上がり、懇親会においても活発に意見交換が行われました。引き続き、関係機関で連携し生産性向上を支援していきます。



【黒木副場長による講習】

## 9 宮崎支店ピーマン部会青年部現地検討会

5日、宮崎市住吉の現地ほ場において、生産者及びJA指導員が参加し、現地検討会が行われました。

2ヶ所のほ場を訪問して皆で意見交換を行いました。いずれのほ場もしっかりと茎葉が繁茂し非常に管理が行き届いた状況でした。

ほ場での意見交換の後、普及センターから少雨時のかん水管理や万一の長雨時の病害対策について説明を行い、また総合農業試験場の黒木副場長からは、気象条件を踏まえた土壌水分や湿度の管理、さらには管理を判断する上での観察のポイントについて説明がありました。

その後の懇親会では、あちこちでかん水管理や植物の観察方法について議論が行われるなど、非常に意義深い検討会になりました。引き続き、関係機関で連携し生産性向上を支援していきます。